

平成28年5月放送総局長定例記者会見要旨

○6/25<総合>NHKスペシャル「“神の領域”を走る～パタゴニア超人レース140キロ～」  
(木田放送総局長)

目まぐるしく変わる天気やむき出しの自然の中、道なき原野や山岳地帯を100キロ以上、不眠不休で走り続けるウルトラ・トレイルランの国際大会が、4月に南米・パタゴニアで行われた。選手たちが恐れるのが、レース終盤、肉体と精神が限界に達した時に訪れるという“神の領域”。日本のトレイルランの第一人者・鏑木毅選手に密着し、どのような戦略で“神の領域”に挑んだのか、最新技術を駆使してレースの全容に迫る。  
(詳細は報道資料を参照)

○6/6<総合>「謎の狩人バシヨウカジキ カリブ海大集結を追う」(木田総局長)  
メキシコ沖合のカリブ海では、毎年1月から3月上旬、大自然のスペクタクルが繰り広げられる。「吻(ふん)」と呼ばれる鋭くとがった上あごを持ち、時速100キロを超える世界最速のスピードで泳ぐバシヨウカジキが、巨大な塊となって泳ぐイワシの大集団に襲いかかり、次々に仕留めていく。番組では、日本人研究者の調査に密着。バシヨウカジキの行動を詳細に記録し、謎に包まれた神秘の生態を解明する。  
(詳細は報道資料を参照)

○5/29<Eテレ>「ニッポン戦後サブカルチャー史Ⅲ Back to the90's」(安齋副総局長)  
一昨年、昨年と放送し、第3シリーズになる今回は、戦後の日本社会が大きな変化を経験した90年代のカルチャーに着目。全4回で現代ニッポンの創造力の源泉に迫る。第1回は、“渋谷系”と呼ばれた90年代ポピュラー音楽の原点を探り、渋谷が世界で一番アナログレコードが集まる街と呼ばれるまでになった秘密などを解き明かす。2回目以降もマンガ、アニメ、小説、お笑い、映画、演劇など、さまざまなジャンルから時代を斬る。  
(詳細は報道資料を参照)

○6/25<BS P> スーパープレミアム「ザ・ビートルズフェス」(安齋副総局長)  
1966年6月、ビートルズの来日公演が日本武道館で行われた。半世紀たったいま、彼らがその後の世界の音楽・カルチャーに与えてきた影響やその価値を改めて見つめ直す。さまざまなアーティストによるトリビュートライブや、ビートルズを愛してやまないゲストのトーク、来日公演の舞台裏を独自取材したドキュメンタリー、作品の深読み分析など、当時を知る方々はもちろん、初めてビートルズに触れる方にもお楽しみいただける内容でお送りする。  
(詳細は報道資料を参照)

○6/26<BS 1>「ボクと、JUDOと、リオの金メダル～沖縄からブラジルへ・日系移民、家族のオリンピック～」(荒木副総局長)

リオデジャネイロ・オリンピック、柔道男子66キロ級でブラジルの星と呼ばれるチャールズ・チバナ選手。祖父母が沖縄出身の日系三世で「柔道にこそ日本を感じる」というチャールズは、この階級で日本人選手最大のライバルとも言われている。番組では、ブラジルと日本、2つの国への思いを胸に、日系ブラジル人として初の金メダルをめざすチャールズとチバナ一家の挑戦を追う。  
(詳細は報道資料を参照)

○6 / 27・7 / 25 <NHKワールドTV> 「HAIKU MASTERS in 松山」  
(荒木副総局長)

俳句を英語で作って楽しむ人たちが世界的に増えていると言われている。五、七、五のように、3つのかたまりの短い表現で身の回りの風景などを描写する。番組では、俳人の中原道夫さんと外国人作家らが俳句とゆかりの深い場所を訪れ、世界の視聴者から寄せられた英語の俳句を鑑賞。今回は、正岡子規や高浜虚子など、数々の俳人を輩出した愛媛県の松山市を舞台に2回シリーズで放送する。「俳句の街」ならではの様子や外国人観光客にも人気の四国遍路など、地元の魅力も世界に発信する。  
(詳細は報道資料を参照)

Q：4月からスタートした新番組の所感について

A：(木田総局長) 今あるデータや視聴者からの反響を見ると、総合テレビは平日夜間の編成を大きく変えた結果、今のところ概ね好評で、番組改定の狙い通りのスタートになっているのではないかと。熊本地震関連のニュースがよく見られたことは言うまでもないが、「鶴瓶の家族に乾杯」「うたコン」「ガッテン!」「探検バクモン」なども、よく見ていただき、前年度の同じ時間帯と比べて視聴率は改善傾向にあると思う。朝の連続テレビ小説「とと姉ちゃん」の平均視聴率が22パーセントを超えているが、テーマやお芝居、特に主演の高畑充希さんの演技力が素晴らしく、それを支えている周りの人たちの温かい演技も含めて、お茶の間、視聴者の皆さんに届いているのではないかと。「クローズアップ現代+」については、パナマ文書やドナルド・トランプ氏、サッカーのレスター優勝などについて、特に若い世代、あるいは現役世代の人たちからも多く見ていただいたようだ。テーマによって反響の違いがあり、現場もいろいろ試行錯誤すると思うので、その様子を見ていきたい。全体として、視聴率だけではなく、どういう方たちから見ていただいて、新しいお客さんをどれだけ呼び込んでいるか等の分析がまだまだなので、さらに改良すべき点がどこにあるか、これから夏場にかけて考えていきたい。